

< 参考 >

(1) 代表団

日本側

団長 中島慶二

環境省自然環境局野生生物課長

ほか環境省担当官、渡り鳥専門家

米国側

団長 ジェローム・フォード 内務省魚類野生生物局渡り鳥プログラム次長

ほか魚類野生生物局担当官

ロシア側

団長 エフゲニー E. シロエチコフスキー

全ロシア自然科学研究所生物多様性保全センター所長

(2) 会議の経緯

日米、日ロの間を渡る渡り鳥の保護に関しては、それぞれ渡り鳥等保護条約が締結され、渡り鳥の捕獲等の禁止、絶滅のおそれのある鳥類の輸出入規制、共同研究計画の作成の奨励等が規定されています。これら条約に基づき、概ね2年ごとに、各国における渡り鳥等の現状、保護対策、研究等に関する情報交換、今後の協力のあり方等を協議するため、会議が開催されてきました。

平成18年に、初めて日・米・ロの三カ国の代表が同時に東京に会し、日米・日ロ・三カ国の会合を連続して開催しました。三カ国間で効率のよい意見交換が行われたことから、今回もこの三カ国での意見交換の形式を継続することとなったものです。

(注 1)

日本と米国、日本とロシアの間には下記の協定が締結されています。

- ・ 日米渡り鳥等保護条約（正式名称は「渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその環境の保護に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約」：昭和49年9月19日発効）
- ・ 日ロ渡り鳥等保護条約（正式名称は「渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその生息環境の保護に関する日本国政府とソヴィエト社会主義共和国連邦政府との間の条約」：昭和63年12月20日発効）

(注 2)

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）とは

東アジア・オーストラリア地域において、渡り性水鳥及びその生息地の保全に関する国際協力の推進を図ることを目的とした、政府機関、国際機関、国際NGO等のためのパートナーシップです。1996年（平成8年）から実施されたアジア太平洋地域渡り性水鳥保全戦略の成果を更に発展させるために、我が国及び豪州環境省が主導し、2006年（平成18年）11月に発足しました。渡り性水鳥の重要生息地ネットワークの構築、その普及啓発及び保全活動の促進等を行っています。